

# 本がいっぱい!



## Teen's 2015



### 『向かい風で飛べ!』《Y F I》

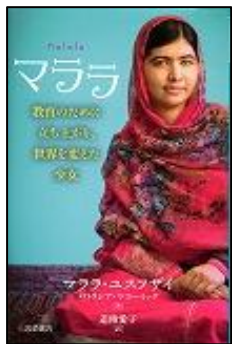
乾ルカ／著 中央公論新社

「ジャンプ見ない?」小さな町の小学校に転校して憂うつな日々を送っていたさつきは、クラスメイトの理子に誘われて、スキージャンプを始める。飛ぶたびに記録を伸ばし、ジャンプが楽しくなってきたさつき。ところがそんな矢先、大会で転倒事故を見たお母さんに、ジャンプをやめろと言われてしまう。それでもさつきはスキージャンプをあきらめきれず…。



### 『マララ』《28.9》

マララ・ユスフザイ／著 パトリシア・マコーミック／著  
道傳愛子／訳 岩崎書店



マララが10歳の頃、パキスタンのスワート渓谷にイスラム武装勢力タリバンがやってきた。タリバンは、女性が一人で外出する事も学校へ通う事も禁止した。子どもが教育を受ける権利を訴えたマララは、15歳の時、タリバンに撃たれて重傷を負う。テロに屈せずに活動を続け、史上最年少でノーベル平和賞を受賞したマララの手記。



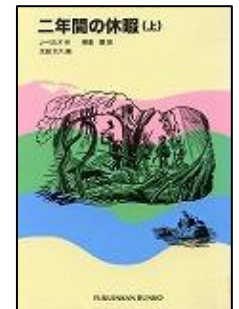
### 『わたしの恋人』《Y F F》

藤野恵美／著 角川文庫

「なんだ、そのくしゃみは…。そんなに可愛いなんて、反則だろ。」龍樹は、保健室で聞いた「くちゅんっ」というくしゃみに恋をした。色恋沙汰なんて興味のないせつなは、突然の告白に困惑するが…。龍樹とせつな、それぞれの視点で描かれる青春ラブストーリー。

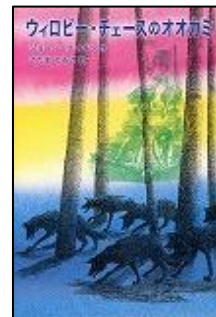
### 『二年間の休暇 上・下』《Y F ベ》

J.ベルヌ／作 朝倉剛／訳 太田大八／画 福音館書店  
ニュージーランドの海岸をスウラギ号で一周する予定だった15人の少年たち。楽しい休暇を迎えるはずだったが、思いがけない事故のため、無人島に漂着してしまう。『十五少年漂流記』の名でも親しまれている冒険物語。



### 『ウィロビー・チェースのオオカミ』《F E》

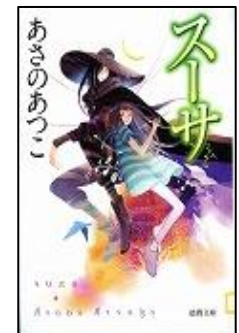
ジョン・エイキン／作 こだまともこ／訳  
パット・マリオット／画 富山房



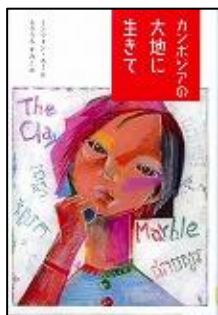
ウィロビー・チェースの大きな屋敷に住むボニーは、いとこのシルビアと一緒に住むことになって大喜び。ところが、両親が長旅で留守の間、家庭教師のスライカー先生が、使用人を首にして屋敷を乗っ取ろうと企む。両親の乗った船は沈み、二人は学校とは名ばかりの恐ろしい所へ連れて行かれ…。

### 『スーサ』《Y F A》 あさのあつこ／著 徳間書店

歩美のもとに親友の智香が交通事故で死んだという知らせが入った。「もう一度だけ、智香に会いたい。」強く願う歩美の前に、幻の商人スーサが現れた。スーサはこの世のあらゆるものを取り扱う商人だ。智香に会うため、歩美は取り引きに応じることにしたが…。



TOKOROZAWA PUBLIC LIBRARY  
所沢市立所沢図書館



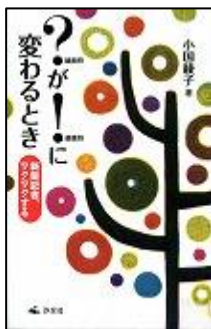
### 『カンボジアの大地に生きて』《Fホ》

ミンフォン・ホー／作 もりうちすみこ／訳 さ・え・ら書房  
戦火を逃れるため、ダラは家族とともに難民キャンプにたどり着いた。ここでは食料のほかに、コメを作るための種もみの配給もある。故郷に帰って種まきができることと喜ぶ兄さん。ところが難民キャンプにも爆撃がせまってきた。新たな地へと移動する最中、ダラは家族とはぐれてしまう。ダラは必死に家族を探して歩き続けるが…。

### 『?(疑問符)が!(感嘆符)に変わるとき』《Y07》

小国綾子／著 汐文社

思いがけず新聞記者の道へ進んだ作者。たどり着いた先は様々な疑問に満ちている世界だった。過酷な現場、仕事と家事の両立…。多くの悩みを抱えながらも、次第に新聞記者の仕事にやりがいを感じ始める。将来、どんな道へ進むのか迷っている人にお勧めの一冊。



### 『動物の死は、かなしい?』《Y48》

あべ弘士／著 河出書房新社

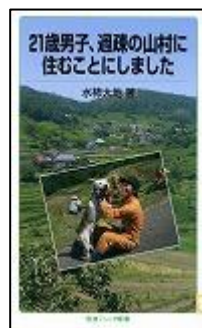
生きたエサをやる「もぐもぐタイム」は残酷なのか？旭山動物園の元飼育係であり、絵本作家の著者が、たくさんの動物の生と死に向き合った経験を通して「命とはなにか」を語る。飼育係しか知らない動物園の裏側や、動物たちの面白いエピソードが満載。



### 『21歳男子、過疎の山村に住むことにしました』

《Y31》水柿大地／著 岩波書店

自分の本当にやりたいことは何だろう？21歳の大学生が進路に悩んだ末に出した結論は、休学し地域おこし協力隊員として山村で暮らすことだった！「楽しいことは正しいこと」を信念に、地元の人々と力を合わせて過疎の山村を再生へと導くまでの奮闘記。



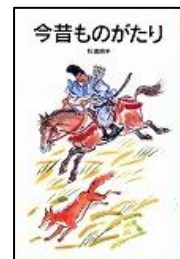
### 『最初の舞踏会 ホラー短編集3』《YFサ》

平岡敦／編訳 岩波書店

見てはいけないって言われると、かえって見たくなくなる。誰でもそうさ。でも、つまらない好奇心ほど高くつくんだ。そう、昔々、青いひげのお金持ちの男に嫁いだ娘はね…。(「青ひげ」)フランスのホラー15話を集めた短編集。

### 『今昔ものがたり』《91.9》杉浦明平／作 岩波書店

芋粥が好物の五位は、芋粥をあきるほどごちそうするという利仁將軍の誘いに大喜びで出かけたが、山と積まれた芋を大釜で煮るのを見ているうちに…。(「五位と利仁將軍」)千年前に書かれた39の楽しい話。



### 『蛙となれよ冷し瓜』《91.1》マシュー・ゴラブ／文 カズコ・G.ストーン／絵 協明子／訳 岩波書店

いまなお多くの人々を魅了してやまない小林一茶の俳句とともに、一茶の一生をたどる絵本。17文字の世界に込められた一茶の想いとは一体何なのか。小さくて広い俳句の世界をのぞいてみよう。



### 『思い出をレスキューせよ!“記憶をつなぐ”被災地の紙本・書籍保存修復士』《36》堀米薫／文 くもん出版

思い出を救うことが、被災者がこれから生きていくための大きな力になる。東日本大震災で被災した思い出の写真や賞状、文書などを救うために立ち上がった“紙本・書籍保存修復士”がいた。



### 『物語ること、生きること』《Y91》

上橋菜穂子／著 瀧晴巳／構成・文 講談社

「獣の奏者」「守り人」シリーズの著者である上橋菜穂子さんが、作家を志したきっかけや、独特の作品世界がいかんして生み出されたのかを、数々のエピソードを織りまぜながら、語り尽くしたエッセイ。作家になりたい人は必見！

